

「拓魂之碑」

秋田市河辺町・大張野開拓

秋田県秋田市の東部に位置する河辺町（旧・河辺郡河辺町）の^{おおぼりの}大張野開拓の歴史は、明治時代にさかのぼる。1880（明治13）年、新政となり禄を離れた士族たちが結成した団体が、政府の資金援助を受けて開拓を始めた。翌年、明治天皇が秋田・山形両県を主に東北巡幸された際、同開拓地に立ち寄られた。だが、その栄誉もむなしく、用水不足で米を作れなかったこと等から、経済的に行きづまり、開拓事業は失敗に終わった。戦後、同開拓地に再び開拓者が入植した。

戦時中、満14～18歳までの青少年を満州（現・中国東北部）に開拓民として送り出す「満蒙開拓青少年義勇軍」の制度があった（満州での名称は、満州開拓青年義勇隊）。同開拓地に入植したのは、同義勇隊の引揚者で主に県外出身者だった。46（昭和21）年から49年にかけて47戸が入植したが、18戸が離農し、29戸となった。

標高65^{メートル}前後の台地で傾斜はほとんどなく、土壌は腐植を大量に含有する埴土だった。入植者は開拓の鍬をにぎり、まず、雑穀などの自給食糧の生産を始めた。48年、大張野開拓農業協同組合を設立。64年頃から酪農が導入された。さらに、養鶏・そ菜・陸稲と多彩な営農が行われた。現在は、野菜栽培が盛んである。

大張野鬼子母神社内に、明治天皇が巡幸された時に設けられた史跡「大張野行在所跡」に隣接して、開拓記念碑がある。

開拓記念碑の除幕式は、65年9月に挙行された「大張野開拓二十周年記念大会」において執り行われた。碑銘は「拓魂之碑」。

下面の碑文の末尾には、「前途多難なるも稲穂の波寄せ乳の流るる郷となりし、二十周年を迎へ茲に開拓魂を結集し初志の貫徹を誓い此の碑を建てる」と記されている。

裏面には、開拓者の氏名が刻まれている。

大張野開拓 「拓魂之碑」

- ①調査日 2017年6月29日
- ②所在 秋田市河辺町大張野
- ③地区の沿革 標高 65 米前後の傾斜がほとんどない大地に、満蒙開拓青少年義勇軍の県外出身の引揚者が昭和 21 年～24 年に 47 戸が入植、18 戸は離農。
- ④設置年月日 昭和 40 年 9 月 20 日
- ⑤設置者 入植者 28 名
- ⑥碑名 大張野開拓二十周年記念
- ⑦碑文（表面） 拓魂之碑 秋田県知事 小畑 勇二郎 書
終戦時満州開拓青年義勇隊に在り、翌年大張野入植、宮前農事実行組合結成、長年に亘り開拓の鋤を把り進取の気概に富む地元の石塚三治郎を初代組合長とし四十数名生活を共にせるも十数名離農、二十三年大張野開拓農業協同組合と改め、引揚者等入植し理想郷建設に専念途上、二代組合長黒澤武夫他数名開拓の礎となれり、前途多難なるも稲穂の波寄せ乳の流るる郷となりし、二十周年を迎え茲に開拓魂を結集し初志の貫徹を誓い此の碑を建てる。
- ⑧碑文（裏面） 入植者 28 名の個人名 昭和四十年九月二十日 建立
- ⑨現在の状況 鬼子母神社（史跡「大張野行在所跡」）で管理されている。

